日本赤十字九州国際看護大学学術情報リポジトリ

タイトル	新人看護師の対人関係能力修得に関係する要素
著　者	齋藤涼子，江角真由美，藤江育子
掲載誌	日本精神科看護学会誌，51(1)：pp 336-337.
発行年	2008.06.30
版	publisher
ＵＲＬ	http://id.nii.ac.jp/1127/00000308/

＜利用について＞
・本リポジトリに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社（学協会）などが有します。
・本リポジトリに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
・著作権に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。
・ただし、著作権者から著作権等管理事業者（学術著作権協会、日本著作出版権管理システムなど）に権利委託されているコンテンツの利用手続については各著作権等管理事業者に確認してください。

日本赤十字九州国際看護大学. 2014.

新人看護師の対人関係能力修得に関係する要素

島根県　松江赤十字病院
○齋藤涼子　江角真由美　藤江育子

Key Words

精神科新人教育　対人関係能力　面接調査

はじめに

精神科病棟に入院する患者は，何らかの人間関係上の困難を内包していることが多く，他者に対して不信感が強い。関係性が築きにくい患者に，はじめてかかわる新人看護師は，戸惑い，不安を抱いている。しかし，彼らは，失敗や挫折を繰り返しながらも，患者と向き合い，関係性を築けるようになり，成長していく。精神科看護師として成長していくその過程には，何が必要なのだろうか。

ペプロウは「看護とは病人あるいは保健サービスを必要としている人間と，彼らに対する援助へのニーズを認識し，かつこれに応じられるような特別の教育を受けた看護婦との人間関係である」と定義している[1)]。筆者ら教育担当者は，「新人看護師の成長には対人関係能力修得が不可欠」と考えた。そこで，関係性が築きにくい患者にかかわる精神科病棟において，対人関係能力修得にどのような要素が関係するのかを調査，分析した。この研究を，今後の新人教育に活かしたいと考えたのでここに報告する。

Ⅰ．研究目的

新人から精神科病棟に配属となった看護師対象に，面接調査を行い，対人関係能力修得にはどのような要素が関係するのかを明らかにする。

Ⅱ．研究方法

１．研究期間　200X 年Ｙ月～Y+4 月

２．調査対象

新人から精神科病棟に配属となり，卒後教育終了後も，当病棟に勤務している看護師６名（勤務年数４～８年）

３．調査方法

半構成的なインタビューガイドを用い，新人の時から現在に至るまでに，みずからの成長過程において影響を及ぼしたと思われる事柄を中心に，インタビューした。それぞれのインタビューは 20 分～30 分とし，研究者と対象者１対１で行い，許可を得て逐語録を作成。その中からカテゴリーを抽出し，分析した。

４．倫理的配慮

調査対象者には，研究目的以外には使用しないことを口頭と文章で説明し，同意を得た。

Ⅲ．研究結果

面接調査から得たデータより，コードを作成し，対人関係能力修得に関係する要素について分析すると，【患者理解】，【自己洞察】，【自己開拓】，【先輩看護師の支え】の４つのカテゴリーに分類できた。

１．【患者理解】は，サブカテゴリーが［患者からの癒し］，［患者への興味・関心］，［患者と向き合い，寄り添う］があった。

２．【自己洞察】は，サブカテゴリーが［自信がなく，うまくできない自分］，［不安］，［自分と向き合う］があった。

３．【自己開拓】は，サブカテゴリーが，［理想の看護師像］，［治療的な関係を築く］，［自分を変化させる］があった。

４．【先輩看護師の支え】は，サブカテゴリーが，［先輩から認められる］，［チームワーク］，［理想の先輩看護師からの学び］があった。

Ⅳ．考察

１．患者理解

新人は，はじめての患者に対して，うまく話ができない，怖いという不安があった。それに対して，先輩看護師が「患者さんは，傍に居るだけでも安心するからいっておいで」と背中を押してくれたことで，新人は患者に近づけるようになる。患者は，新人を受け入れ，笑顔や優しい言葉で返してくれるようになる。新人は，そのような患者の姿に癒され，安らぎを感じられたことで，患者への興味・関心が高まり，ゆっくりと関係性を築いていこうとする。

患者理解は，戸惑い，不安を抱いている新人が，人間関係を築くうえで，最初に必要な要素といえる。

２．自己洞察

新人は，手ごたえの感じにくい看護のなかで，自信がない，不安，できない自分と感じている。患者は，そのような新人に「私の辛さがわからない」とストレートに言葉をぶつけ，新人を妄想対象にし，暴力で自分の思いを伝えようとすることがある。それに対して，うまく対応できない新人は，未熟さを痛感するとともに，被害的な思いも湧いてくる。しかし，先輩看護師が「辛かったね。でも患者さんも同じように辛かったんじゃないかな」と，患者に置き換えて考える機会をもってくれることで，新人は自分中心の考えだったと気づけるようになり，患者の真の辛さや弱さを理解しようとするきっかけとなる。

自己洞察とは，新人が自分を客観視することで，自分中心の考えから，患者の立場になって考えられるようになる成長過程で必要な要素といえる。

３．自己開拓

新人は，患者と向き合えるようになってくると，以前は気づかなかった患者の小さな変化や反応が気になっていく。「患者に回復してほしい」という強い思いから，自分なりのかかわりを考えて実践するようになる。そのかかわりを積み重ねていくことで，自分の患者に対してのかかわりの重みや責任を感じていく。そこで，かかわりが難しい興奮が強い患者や，操作しようとする患者の，看護の方向性を見出してくれる先輩看護師の姿を見て，不安はあるが自分を覆っている殻を破り，かかわってみようと努力する。新人は，今まで介入できなかった部分に踏み込み，患者の真の問題と向き合い，「解決していきたい」と思えるようになっていく。

自己開拓とは，新人が患者の細やかな変化や反応に気づき，かかわりに責任をもって，逃げずに向き合えるよう成長していくのに必要な要素といえる。

４．先輩看護師の支え

先輩看護師は，新人が患者を理解できず，不安を抱いている時には支え，見守ってくれる。患者とのかかわりの中で，失敗や挫折した時には，その姿勢をまず認め，返ってきた患者の反応から振り返りの機会をもってくれる。そのような支えがあり，少しずつ自分自身を認めることができるようになり，さらにがんばりたいと思うようになっていく。そして患者に対して，治療的な関係を築ける先輩看護師のかかわりを学び，自己の看護観を深めていけるようになっていく。

先輩看護師の支えは，新人が成長していく過程で，【患者理解】，【自己洞察】，【自己開拓】すべての要素に介入しているので，重要な要素といえる。

まとめ

今回の研究結果から，精神科新人看護師の対人関係能力修得に関係する要素に，【患者理解】，【自己洞察】，【自己開拓】，【先輩看護師の支え】があり，それぞれの要素すべてが，必要不可欠であることが判明した。なかでも，先輩看護師の存在が，新人の成長を大きく支えているという結果を得た。

これを活かし，私たち教育担当者は，新人が不安を抱き，つまずいている時に，支えとなれるような職場風土を築いていけるように，今後も取り組んでいこうと思う。

引用・参考文献

１）日本精神科看護技術協会編：精神科看護の専門性をめざして，専門基礎編（上），中央法規出版，ｐ５，1997.
２）川野雅資編著：患者‐看護師関係とロールプレイング，日本看護協会出版会，2007.
３）池田明子他訳：ペプロウ看護論‐看護実践における対人関係理論，医学書院，1996.